

THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



2022～2023年度 国際ロータリー ジェニファー E. ジョーンズ 会長テーマ

IMAGINE ROTARY イマジン ロータリー

創立 1954年 3月 8日
承認 1954年 3月 30日例会日時 毎週月曜日
12:30～13:30
例会場 刈谷市新栄町3の26
刈谷商工会議所内
事務所 TEL (0566)22-2111
FAX (0566)25-2111
メール kariyac@katch.ne.jp
ホームページ http://www.kariya-rotary.com
会長 小川 耕 示
幹事 丹 羽 克 誌
会報委員長 石 川 友 美

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

第3169回例会プログラム

[当年度=8回目;当月=2週目]

2022年(令和4年)9月12日(月)

1. 例会……………〈司会:プログラム委員会〉

12:00 〈食 事〉

- 12:28 1. チャイム
12:30 2. 点 鐘……〈会 長〉
3. 開会宣言
4. ロータリーソング斉唱……我等の生業
5. 講師・ゲスト並びにビジター紹介

6. 会長挨拶並びに会長報告
7. 幹事報告
8. 出席報告
9. 委員会報告
10. ニコニコボックス報告
11. 次週並びに次々週のプログラムの予告
(9/19) ……休 会 (法定休日)
(9/26) ……クラブ協議会
ガバナー補佐訪問

2. クラブフォーラム……………〈雑誌委員会〉

- 13:00 卓話 「ロータリーの友は
創刊70周年を迎えます」
講師 クラブ雑誌委員会
委員長 佐野 彰彦 会員
12. 謝 辞
13. 点 鐘……〈会 長〉
14. 閉会宣言

13:30 15. 散 会

出 席

会員総数 101名 出席免除 26名
出席義務者+免除者の内例会出席者 91名
欠 席 14名 出席率 84.62%
前々回(8/29)の修正出席率 100%

幹 事 報 告

- 1) 9月のロータリーレートは139円となりました。
2) 地区研修協議会の報告書が届きましたのでメール
BOX に入れさせて頂きました。

委 員 会 報 告

●社会奉仕委員会

- 1) 第2760地区ガバナーより「青森県大雨災害(2830
地区/青森)」への義捐金の支援の協力が参りました。
ご協力をお願い致します。



●鈴木文三郎 会員

- 1) 映画「マリッジカウンセラー」の監督、泉田出身
の前田直樹さんのご紹介のチラシをメールボックス
に入れさせて頂きました。

小川 耕示



豊田自動織機の渡部会員に卓話者の紹介を頂き、先週の水曜日に講師のサンバレー大橋様のショールームを見学させて頂く機会がありました。サンバレーは豊田自動織機の関連会社として日用品や旅行販売、企業内売店の他に真空管アンプの販売を

されています。広小路にあるショールームは20畳ほどのリスニングルームとなっていて製品の試聴ができるようになっています。そこには、高さが1m以上ある大きなスピーカーと真空管アンプが10台ほど置いてありました。

以前、マイクの話をして頂きましたが、今回は音の出口としてのスピーカーのお話をさせて頂こうと思います。スピーカーはおよそ100年前に真空管が発明されたから、大きな音を大衆に聞かせるために開発されました。最初はマグネチック式と言って磁石の中に鉄片を置き、電圧の変化で鉄片を振動させることによって電気信号を音に変えていました。小さな音を大きくするために音の出口にラップを取り付けたスタイルが一般的でした。その後、今のスピーカーの様に紙の振動板によるコーン式が登場し、1925年には現在のコイルが磁界の中で動いて音を出すダイナミックスピーカーが発明されました。スピーカーに関しては、黎明期に基本構造が確立し、現在に至るまで改良が繰り返されながら使われているようです。

デバイスが真空管、トランジスタと変わり、方式がアナログからデジタルへと変わっても人に対するインターフェースはずっと変わっていないと言うのは不思議な気がします。確かに楽器は昔からあるものはずっと変わらずに、何世紀も前に作られたストラディバリウスが今でも価値を持っています。人間の感性は科学では解明できないということのあらわれなのでしょう。11月のサンバレー大橋様の卓話で、皆様の感性がさらに研ぎ澄まされることを期待しています。



「ロータリーの友は創刊70周年を迎えます」

講師 クラブ雑誌委員会
委員長 佐野 彰彦 会員



本日は雑誌月間という事で、雑誌委員長である佐野が、ロータリーの友70周年についてお話をさせて頂きます。

「ロータリーの友」は1953年1月に創刊され本年で70周年を迎えました。

創刊当時は現在のように縦書き・横書きに分かれておらず、全て横書きでした。

これまでの『友』はアーカイブでこれまでの『友』が全巻オンラインでお読み頂けます。

詳しくは、2022年9月号をご参照ください。

閲覧にはクラブ単位で発行しているID、パスワードが必要です。ご自身でご確認ください。

友では創刊70周年して、「バックナンバーでたどる『友』70年」「友委員長10年を語る」などを企画しています。

その一つが「創刊70周年俳句コンテスト」。クラブの例会で、みんなで一句読んでみませんか？

詳細は友9月号をご覧ください。たくさんのご応募をお待ちしています。

『友』は国際ロータリー (RI) の機関雑誌です。

ロータリアンには国際ロータリー (RI) が認可したロータリーの雑誌の購読義務があります。

日本のロータリアンは、アメリカ本部で発行している『ROTARY』もしくは『ロータリーの友』を購読することになっています。

アメリカ、日本、台湾、韓国、ノルウェーのいずれも7月号の表紙を紹介させて頂きました。2022-23年度 RI 会長が表紙を飾っています。諸規定の一つです。様々な諸規定がありますが、規定に従って編集され、発行され、我々の手元に届いております。

ロータリーのロゴについてですが、決められています。古いロゴや現在のロゴの文字の大きさを変形したり・古いロゴを使ったり・色を変えたりするのは禁止されています。

正しいロゴを手に入れるには MyRotary からのダウンロードをしてください。

横組みと縦組みがある理由

ロータリーの友の創刊時は、全て横書き（横組み）でした。しかし、俳句を掲載するようになり、部分的に縦書き（縦組み）で掲載するようになりました。

その後、横書き、縦書きが混在していましたが、縦書

きで掲載する記事も増えてきたため1972年1月号から横書きと縦書きを分けた形式になりました。

この時から、表紙は2つになりました。

現在、横組みでは、RI関係の記事、特集、ロータリーに関する理解を深める記事を中心に取り上げています。

縦組みは、投稿を中心に、国内のロータリークラブの活動や会員個人のエッセーを中心に、会員同士の親睦を深められるような記事を掲載しています。

親しみやすく、人気があるのは縦書きの欄です。

7月25日に刈谷ロータリーバンドが昨年米山奨学生劉百恵さんを交えて演奏された事をロータリーの友に投稿させて頂きました。掲載されることを祈るばかりです。

